

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すみだステップハウスおおぞらにじの子(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	R6年 9月9日		～ R6年 11月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	273人	(回答者数) 130人
○従業者評価実施期間	R6年 12月2日		～ R6年 12月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 20人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・親子通園のため保護者も療育に参加することで、お子さんの様子や支援法と一緒に確認することができ、お子さんの関わり方を家庭でも活かすことに繋がっている。 ・保護者交流会、保護者教室などの保護者支援プログラムが充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後のフィードバックで活動のねらいを確認しお子さんの振り返りや保護者の方の要望を聞いて情報共有して取り組んでいる。 ・各年齢に合わせた支援の提供とお子さんの課題に合わせてモデルステップで取り組んでいる。 ・保護者交流会を定期的に行い、就学・就園の情報提供や保護者同士の交流の場、さまざまなテーマを決めて提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの状況と保護者ニーズを整理して育児の不安や悩みなどに対して寄り添った支援を大切に取り組んでいく(視覚的な支援や理解しやすい環境設定・構造化など)。 ・保護者交流会は同年齢、異年齢それぞれのつながりの橋渡しができるような情報を提供し保護者ニーズに寄り添って取り組みを強化していく。交流会の周知は、資料配布・掲示、ウェルキッズ配信で各保護者の方に情報を提供していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門職の心理士・ST・OT・看護師が在職しているため、お子さんの状況に合わせた療育の提供ができる。 ・児童精神科・小児整形・小児神経・摂食相談など各専門医の医療相談が毎月定期的に提供ができ、保護者の方のニーズに合わせて相談や発達状況を確認して医学的な助言を受けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療育スタッフと療法士が情報共有を行い、課題に対しての支援方法を検討して提供している。 ・専門性を活かし各専門職との情報共有を行うことでチーム連携に取り組んでいる。 ・医療相談での情報を共有して療育支援に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム連携することで、多岐の視点を取り入れお子さんに合った支援を提供する。 ・今後も医師診察を行った後に保護者と支援の配慮点など確認し、医師のアドバイスを活かした支援を提供する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談・すみだ保健子育て総合センター・他事業所など地域の関係機関との連携ができる。 ・保育所等訪問支援やお子さんが通園している母集団との情報共有と連携ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みつばち園と支援方法や運営など協力体制を構築している。 ・保育園・幼稚園などの関係機関とは保護者の方の了承を得た上、支援方法の共有やアドバイス等を行うことにより、お子さんにとって安心して取り組める環境が増えるよう働きかけている。 ・ケースによっては関係機関の方による療育の様子などの見学も受け入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携をさらに強化していく。 ・今年度9月から保育所等訪問支援をスタートさせ、保護者のニーズも多く関係する施設と保護者との連携がより密になっているので、さらに充実できるように努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保が難しく、集団療育の運営に影響があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時募集をかけているが、なかなか人が集まらない。現在は人材派遣も活用して運営を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異動職員、新人職員が習得しやすいように人材育成(OJT)をシステム化してすすめ、可能な限り早急に育成できるよう努める。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭が増えて仕事との両立など調整が必要な状況があり、集団・個別療育ともに定期的な利用が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭が増えて仕事との両立の為、平日の通園の調整が難しい家庭が増えている。 ・仕事の調整が難しいために、休みが多く療育の積み重ねが難しい状況にある。 ・療育が必要なお子さんが利用に至らない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にとって有益な情報提供や、保護者同士のつながりを作る機会を設ける等の支援を提供する。 ・保護者の要望に応じて民間療育施設と情報共有を行う。 ・令和5年10月～3月に集団療育が必要な対象年齢を絞り、隔週土曜日でもろんぐグループを実施しており今後も継続して行う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日程調整のご希望により需要の多い曜日や時間帯に集中してしまい予約枠に偏りが生じてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き家庭が増え、平日でも需要の多い曜日や時間帯に集中しやすいなどの制約があり、予約のスケジュール調整が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方の希望を伺いながら、各療法士が空いている時間や曜日等の提案をし調整をしている。 ・土曜日などは需要が多い状況であるが、限られた枠の中で調整して取り組みを行っている。 ・希望の多い枠が固定しないよう協力をお願いし、平等に利用できるよう取り組んでいく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 すみだステップハウスおおぞらにじの子(児童発達支援)

公表日 令和6年 3月 10日

利用児童数 令和6年 9月 9日 回収数 130名

Table with 8 columns: No., Check Item, Yes, Both, No, Don't Know, Comments, and Response to Comments. It is divided into three sections: Environment/Structure/Preparation, Appropriate Support Provision, and Explanation to Guardians.

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	102	10	1	7		
	20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	110	7	3	2	子ども支援のフィードバックを子ども同席してやっている。担当と保護者のみでできる環境があれば良いと思った。	活動後の保護者とのフィードバックの際は、分離して実施することは難しい状況ですが、部屋の状況で可能な場合もありますので対応していきます
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	75	15	4	24		
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	108	3	0	8		
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	74	12	1	32	23～26機会がなかった。参加したことがないのでわからない	各マニュアルは作成しています。総合防災訓練、避難訓練、感染症防止訓練などを定期的実施しています。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	59	11	1	48		
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	92	7	0	20		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	75	7	0	36	事故はなかった。	事故や怪我がないように安全に配慮しています。保護者同席のため、怪我や事故の場合には、保護者に説明させていただきます。
満足度	27 子どもは安心感をもって通所していますか。	120	0	0	1		
	28 子どもは通所を楽しみにしていますか。	109	9	0	3	習った歌や遊びを家でもやると嬉しそうです。子どもは楽しみにしている。いつも楽しそうにしています。	療育で行った活動を家でもできる事は、お子さんの成長でもありとてもうれしいことです。経験を通して成長していくことを保護者の方と一緒に支援していきます。
	29 事業所の支援に満足していますか。	113	8	0	0	親の心のケアも嬉しい。大変丁寧に見て頂けて安心して活動に参加できています満足している 外の場所にも行ってみたい。 限られた日程でしか対応がなく、共働きである為、諦める等の方法しかなくなる。	外遊びについては、近隣の公園等で活動を提供し、遊具遊び・風あげ・土手遊び等、屋外でできる活動を工夫して行っていきます。 日程調整につきましてはご協力ありがとうございます。 集団療育の利用については、土曜日のグループ体験を設定していますのでご参加ください。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名 すみだステップハウスおおぞらにじの子(児童発達支援)

公表日 令和 7年 3月 10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	2	空間と子どもの特性を考慮して環境設定している 怪我防止対策をしている	部屋の空間が広いと落ち着かないお子さんがいるので、 部屋を区切られるとよい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	8	環境設定を整えたり、活動内容を人手が取られないように工夫 している。 人員不足。派遣職員を採用しているから助かっている。	定員よりもお子さんの発達の程度が重いと個対応が必要 になるので、人員的には不足していると感じる。 土曜出勤などの体制で常勤職員の欠員の影響があると思 われる 欠員分の稼働に大変さがあります 職員の増員が必須。 今年度は欠員があり、特に集団療育職員の負担が大き くなった
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、 事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上 の配慮が適切になされているか。	19	1		玩具の収納が構造化されるとよい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達 の活動に合わせた空間となっているか。	19	1		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境に なっているか。	16	4	室内に余計なものを置かないよう工夫されています	ホワイトボードを使って個別の空間を作っているが、落 ち着く環境ではないと思う。 空き部屋がない。安全に使用してから仕切りなどあるとよ い 必要時にクールダウンできるように、スペースがもっと あると子ども職員も安心して療育できる。 クールダウンのスペースがない
業 務 改 善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が 参画しているか。	15	5		業務が多すぎて、見直しなどが必要と思う 人手不足のため振り返る余裕がない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、そ の内容を業務改善につなげているか。	19	1	グループ内で情報共有するように心がけています	匿名にする、スマホで回答するなど保護者が答えやすい ようにできるとよい
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげ ているか。	17	3	週に1回会議を開催し、意見交換をしている。	会議をうまく活用できるとよい
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	19	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開 催する機会が確保されているか。	18	2		
適 切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	3		まだ実施できていない(準備中の為)
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや 課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20	0		
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こ どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検 討が行われているか。	20	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	3		他の職員がデータで確認できるようになるとよい
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセス メントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用す る等により確認しているか。	17	3		アセスメントがしやすい記録など見直しがあると良いと 思う 必要に応じてアセスメントの導入を検討できるとよい
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供す べき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地 域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が 適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19	1		毎日通う施設ではないので設定をすることが難しいこと もある
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20	0		子どもの発達に合わせてプログラムを組んでいる。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	20	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	20	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20	0		活動後は今後の支援の方向性を確認している
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	0		一職員の記録ではなく、情報共有のためのものとして記録を位置づけられると良い。そのために、書式や内容、記録手段などの改善を図ると良いと思われる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	20	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	20	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	20	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	20	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	12	8		スーパーバイズを予算化して客観的な立場からのアドバイスが受けられると良い
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	10		必要に応じて情報交換はするが、それ以上の交流の機会はなく、業務がたてこんでおり時間の余裕がない
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	20	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	19	1		保護者支援は担える職員に限られており不十分である	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	20	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	20	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	19	1	連絡表なども活用して対応している	お子さんの年齢が高いと保護者と職員の話を聞いており、話づらい。分離も難しいことがある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16	4	特に設定した機会はないが、地域の公園で遊ぶ機会がある。	きょうだい同士での交流が少ない。きょうだいへのサポートも少ないと思う きょうだい対応は非常にデリケートなので、外部講師にお願いしないと難しいと思う 保護者同士の交流の機会はあるが、兄弟の交流はない

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	1		分離できるスペースの確保が難しい
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	20	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20	0	年に1度行事として地域の方が施設を見学できる日がある	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	1		防犯の訓練は実施したことがない
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	20	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	20	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	7	こあら、バンダでは、保護者が作ったお弁当を持参してもらうためアレルギー等の対応は保護者がしている、感染症対応から1人1テーブルを使用し職員が付いて対応しており、他児が食べってしまうこともない	給食などの食事の提供がない 食事提供がないため特にそのようなことはしていません 事前に確認して対応している 食事提供なし 食事提供のプログラムがないため、医師の指示書はない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	20	0		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	20	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	19	1			